

工学部技術部長殿

工学部 技術部 機器分析グループ
山下 彬宏

新規採用者研修報告書

表題の件について、下記のようにご報告いたします。

記

1. 被研修者：

山下 彬宏

2. 期間：

平成 29 年 4 月 1 日 - 平成 31 年 3 月 31 日

3. 場所：

熊本大学 工学部 技術部

4. 指導者：

工学部 技術部 機器分析グループ 技術専門職員
山室 賢輝

5. 目的：

国立大学法人教室系技術職員として、本学の理念・目的・目標に沿った業務に従事するために必要な心得、知識および技術を習得する。

6. 研修項目および成果：

1) 新規採用者研修

新規採用研修では、平成 29 年度新規採用事務職員および教室系・施設系技術職員と共に、グループワーク、講義・講話、ビジネスマナー研修、安全教育、あるいは合宿研修（合津マリンステーション）といった様々な研修に取り組んだ。これらの研修では、他部署・他分野といった多種多様な職員と交流を深めることにより、「国立大学法人熊本大学」職員として業務に従事するための心得を習得した。

2) 教室系技術職員として日々従事する業務研修

【研究支援】

有機微量元素分析装置（JM10、株式会社ジェイ・サイエンス・ラボ製）担当者として、分析技術の習得および保守・管理に取り組んだ。第二回有機元素分析研究会（岡山大学、平成 30 年 1 月）に参加し、消耗品の交換、あるいは特殊試料のサンプリング実習に取り組み、他大学の同装置担当者との交流を深

めた。また、平成 30 年 4 月より、新規に同装置の共通利用化推進を図り、工学部他学科（旧物質生命化学科以外）から依頼される分析に積極的に取り組んだ。平成 30 年度に他学科から依頼された分析数は、計 13 件であった。今後、同装置におけるさらなる知識および技術の習得に精進し、日々自己研鑽に励む。

【教育支援】

材料・応用化学科（旧物質生命化学科）3 年次を対象とした学生実験「生命・高分子化学実験」および「化学工学実験」を主に担当した。これらの学生実験では、毒物・劇物といった危険な試薬を使用する。教職員と連携を図り、学生および TA を教育・指導することで、学生の安全教育だけでなく、知識および技術の理解・習得・向上に精進した。

【安全管理】

平成 30 年度より、本学環境安全センターから業務支援依頼される「作業環境測定」を代表した安全衛生業務支援に取り組んだ。作業環境測定計 7 件および浮遊物質量（SS）測定計 3 件の業務依頼に適切に対応した。また、研究棟 II 1F 学生実験室におけるスクラバー付ドラフトチャンバーの定期自主検査に取り組んだ。このように、本学における安全衛生管理に大きく貢献した。

【社会貢献】

「中学生を対象とした夏休みの自由研究に関する技術相談会 2018」（平成 30 年 7 月）および「夢科学探検 2017（2018）」（平成 29 年 10 月および平成 30 年 11 月）に積極的に参加した。また、「平成 30 年度工学部奨励研究」に採択され、個別に「中学生を対象とした実験」（平成 30 年 11 月）を実施し、保護者からも好評であった。これらの社会貢献事業において、子どもたちのさらなる自然科学や科学技術分野への興味・関心を高め、理解を深める事業に取り組むことができた。そして、本学が果たすべき「科学技術系人材育成」および「社会貢献事業」の一端を十分に担うことができたと考えられる。

【スキルアップ】

「甲種危険物取扱者（平成 29 年 7 月取得）」、「第一種衛生管理者（平成 30 年 12 月取得）」および「第二種作業環境測定士（平成 31 年 3 月登録）」といった資格 3 件（うち国家資格 2 件）を取得・登録し、日々従事する業務に十分に生かし、スキルアップに精進した。

また、「平成 30 年度工学部奨励研究」に採択され、採択された事業内容を含め、平成 30 年度に得られた業務成果を「平成 30 年秋田大学度機器・分析研究会（平成 30 年 9 月）」および「総合技術研究会 2019 九州大学（平成 31 年 3 月）」にて、2 件のポスター発表をした。

さらに、本学が採択される「スーパーグローバル大学創成支援」の一環として、「平成 30 年度熊本大学共通研修「英語研修（学内受講型）」【英語自己学習法セミナー】（平成 30 年 10 月）」に参加し、英語能力向上に励んだ。

【その他 WG 活動など】

平成 30 年度 223 教室・百周年記念館 WG の一員として、計 6 件の業務支援に従事した。

以上